



## 「こんにちは 市長です」

12月20日号

久しぶりに富さんが来てくれた。元気な様子、何よりである。少し前までは障がいのあるお嬢さんと奥さんとご一緒、今は独りぼっちの生活。「手をつなぐ親の会」の会長をしていた頃はこれからの障がい者にどう向き合っていくのが良いか、よく話に来られた。お嬢さんのことをいつも気にして「先には死ねない」が口癖であった。40歳を過ぎた頃だったろうか、彼女は亡くなった。どんなに肩を落としたことか、富さんの顔がそのことを物語っていた。本当に久しぶりに会った。85歳になって復活が見えてきた。

元気な高齢者が増えていく時代だ。いや、増やそうとしている。自分自身のためにも社会のためにも。少し前までは、高齢者は病気がちで社会性もなくなり無気力になってきて、家族は持て余し、施設に入ってもらおうというのが標準だった。この数年でお年寄り＝弱者という見方はずいぶん変わった。私など東京で電車に乗る機会が多いけど、席を譲ってもらったことはない。つり革につかまっている。「席を譲りましょう」なんて言われなくてもいい。混雑する電車に乗る高齢者はみな元気なのである。とは言え、「孤独」が必ず来る、富さんはいみじくもそのことを言っていた。テレビを見てても毎日じゃ飽きる。グラウンドゴルフは人と話せる場として好きだけど何か達成感に欠ける。元気であっても必ず「孤独」は来る。日常の中で孤独を少しでも軽減できないか。政府が音頭を取って70歳までは「働け」という気配が濃くなった。

以前、このコラムに「シルバービレッジ」をつくりたい、みたいなことを書いたことがある。健康で孤独（気味）な高齢者が若者たちと生活できるビレッジをつくれれば、と担当に設計をお願いしている

もう今年も終わりです。良いお年を。